

【記者からの質問】

<大雨と新型コロナウイルス感染症について>

STS／県内の感染者が増える中、避難所へ行くことをためらう人に対し呼びかけを。
知事／県民の皆さんが、コロナを恐れるあまり、避難行動をとらないことを私は恐れている。まずは、大雨に関する土砂災害や水害から避難しないといけない。市町では、避難所のコロナ対策をできる限り施している。

今回は、県民の皆さんへ迫る大雨の危険とお盆の時期のコロナ対策のお願いを説明した。

時事通信／県が外出自粛要請をするのは初めてか。

知事／昨年、緊急事態宣言のところに要請した。新型コロナウイルスに関し、全国的に知見がなかったころのこと。今回は、できる限り外出を控え、感染を食い止めたい。

時事通信／「お盆の過ごし方」のところで、「久しぶり」という表現を「お盆の帰省で他県から来た人」「他県での結婚式などの」と付け加えてもいいか。

知事／このメッセージをその通りに実行してもらえとは思っていない。ただ、ここに書いていることで、少しでも気をつけてもらいたい。本来、家族やふだん一緒にいる人でお盆を迎えてほしいが、もし行き来する場合は、マスクの着用や会話を控えるよう、できる限り感染しないように対策してほしい。そうすることで、感染のリスクが違ってくる。

西日本新聞／感染者数が過去最多を更新した。県内の感染ステージはどれぐらいか。

知事／ステージ3に近づいている。

西日本新聞／2.5ぐらいなのか。

知事／2.85のような印象。なんとか抑えられないかと期待をしているが、このままではステージ3あるいはステージ4になるかもしれない。最悪のシナリオとして、感染者が100人を超えることも考えておかないといけない。

現在、医師の管理の下で病院とホテル間の搬送を行っている。しかし、中等症の患者が増え、このままでは病床がひっ迫してくる。次の段階として、ホテルと病院の間に準病院的な施設を作るべきか検討している。自宅療養にならないよう、方法を模索している。

西日本新聞／宿泊支援キャンペーンや飲食支援キャンペーンは、お盆の期間の利用を控えるように呼び掛けるのか。

知事／現在の状況は、ステージ3に近いところ。前回のステージ3では、すでに宿泊キャンペーンの予約が済んでいる場合は、そのまま利用し、新規の予約を止める方法をとった。

この数日間の動きを見ながら、扱いを整理する。

佐賀新聞／県内はデルタ株に置き換わっている。もし、避難所で感染者が出て、クラスターまで発生した場合に備えていることがあれば教えてほしい。

知事／起きないような準備をしている。仮に起きた場合、従来通り病院やホテルに入るような対応になる。

NHK／現時点で時短措置に踏み切る考えはあるのか。

知事／都市部の動きを見ていると、時短措置の効果がどれだけあるのかは懐疑的。まず、時短から取り組む形になっている。これから数日間の状況を見て、検討の中に入れておく。

NHK／数日後に検討するという考えでいいのか。

知事／組み合わせをどうするのかということになる。まん延防止等重点措置も考えてはいるが、これもタイムラグがある。県民とともに取り組める方法を、再構築しているところ。

佐賀新聞／感染者が89人にもなり、これまでと同じように1人1人に疫学調査ができるのか。

知事／この1年半で調査体制も整ったし、調査機器もよくなった。だから、これまでは対応できていた。しかし、現場はぎりぎりのところ。

これまでは、接触者の検査で、陰性の人数が多かった。デルタ株は、接触者全員が陽性になり、さらに調査対象が増えていく。今後の調査方法を悩むところ。

国のデルタ株への向き合い方にも左右される。例えば、都市部でロックダウンのような強い規制やさらに厳しい緊急事態宣言を出す方法、全国的に緊急事態宣言を出す方法もある。しかし、宣言を出すだけでは効果が薄いのなら、加えて何かの施策を打つといった、国の危機管理が問われていると思う。

国からの方向性を示してほしいこと、ワクチンの供給、新しい株が全国に広がらないよう国全体としての戦略を構築するよう期待している。

佐賀新聞／先ほどの「準病院」とは、待機ステーションのようなものを考えているということか。

知事／まだ検討の段階。医師会と連携し、救える命を救うため一番いい方法を検討する。

逡巡せずに、早く受診してほしい。高熱が出たタイミングで受診するようにしておくと、自分の体のためにもなるし、感染を防ぐことにもなる。兆候を見逃さないようにしてほしい。

SAGATOCO というアプリに体温を入れる欄があるので、私は朝昼晩のデータを毎日入れている。県民の皆さんも、この習慣を作ってください。